

## 「タイのベーカリーブーム」

タイでは近年、コーヒー文化の定着とともにベーカリーブームが急速に広がっています。この成長の背景には、大手カフェチェーンの積極的な店舗展開や、日系ベーカリー企業の参入が大きく影響しています。

### <コーヒー文化の定着>

タイのベーカリーブームを支える要因の一つに、コーヒー文化の定着があります。大手カフェチェーンの急成長により、美味しいコーヒーとともにパンやスイーツを楽しむ機会が増えています。特に、タイ石油公社 PTT が運営する「カフェ・アマゾン」は、国内で約 4,000 店舗を展開し、全国どこでも手軽にコーヒーと軽食を楽しめる環境を整えています。また、セブン-イレブンや各ガソリンスタンドチェーンもカフェ事業に力を入れており、石油大手 PTG は自社ブランド「パンタイコーヒー」を 2027 年までに 5,000 店舗へ拡大する計画を進めています。加えて、自動カフェ販売機「タオピン」も急速に普及しており、カフェ市場全体の拡大を後押ししています。

### <急成長するベーカリー市場>

タイのベーカリー市場は、2024 年の市場規模が 484 億バーツに達し、年平均成長率（CAGR）は 7% となる見込みです。競争が激化する中で、今後 3 年間でベーカリー店は 27% 増加すると試算されています（Euromonitor 調査）。この成長を受けて、多くの企業が市場参入を加速させています。

### <日系企業の活躍>

この成長市場において、日本式ベーカリーの存在感が増しています。その代表格が「タイヤマザキ」で、同社はタイのベーカリー市場シェアの 18.3% を占めています。日本式のふんわりとしたパンやクリームたっぷりのスイーツが人気を集め、現在ではタイ国内で約 100 店舗を展開。駅ナカの小型店舗から、大型ショッピングモール内の店舗まで、多様な形態で展開しています。

在タイ歴 25 年。会社・駐在員事務所設立、BOI 申請、ビザ・労働許可証、その他各種ライセンス・許認可申請・登記のサポート、労務・法務、コンサルティングを担う。会計事務所やセキュリティ、IT 会社、バイオ技術商社も含むグループ全体の管理を行い、タイでのビジネスをワンストップでサポート。



また、2023 年に設立された「JAPAN PASTRY CONSULTING」も注目の企業です。同社は、日本品質のケーキを手ごろな価格で提供しつつ、タイ人パティシエの育成にも力を入れています。現在 3 店舗を運営しており、着実に高品質な日本のケーキ文化を広めています。ただし、タイにおいて専門店のケーキは、1 ピース 150 バーツ（約 650 円）前後が相場で、まだまだ高級品と見なされているのが現状です。※バンコクの最低賃金（日給 8 時間）は 372 バーツ（約 1,600 円）

### <今後の市場展望>

タイのベーカリー市場は、カフェ文化の発展や健康志向の高まりを背景に、今後も成長が期待されています。特に、日本式ベーカリーの高品質な商品は、安全性や原材料の品質に敏感なタイの消費者の嗜好と合致しており、市場において重要なプレイヤーとしてさらなる成長が見込まれます。



(JAPAN PASTRY トンロー店)